

事業	単位	【参考】実績値			ニーズ調査の結果に基づく見込み量					見込み量算出の方向性	
		24年度	25年度見込み	26年度見込み	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度		
1 利用者支援事業<新規>	か所	/	/	/	15	15	15	15	15	【見込み量算出の方向性】 ・国の考え方にに基づきニーズ調査結果によらず集計する。 ・中学校区に1ヶ所としてはどうか。	
2 時間外保育事業(延長保育)	人	1,677	**	**	2,724	2,668	2,591	2,542	2,476	【実績・見込み量の状況等】 ・実績数値とニーズ調査結果から算出した数値では1,000人程度の乖離がある。 【見込み量算出の方向性】 ・実績数値とニーズ調査結果から算出した数値の乖離があるため、以下の方法により算出してはどうか。 ・24年度の入所児童数 4,361人 入所児童数に対する延長保育利用者の比率 38.45% ・前回の会議で示した教育・保育給付の見込み量のうち、2号(教育の利用意向が強いものを除く)、3号の人数の38.45%となるよう設定する。 【参考】各年度における2号・3号の児童数 27年度 5,329人、28年度 5,222人、29年度 5,077人、30年度 4,970人、31年度 4,847人	
					事務局案(実績を踏まえた見込み量)						2,049
3 放課後児童健全育成事業	人 ※実績は利用者数、()内は利用定員を記載	2,418 (2,940)	2,481 (2,990)	(3,040)	3,046	3,005	2,973	2,915	2,896	【実績・見込み量の状況等】 ・24・25年度における利用者数の実績、26年度の定員見込み数と、ニーズ調査結果に基づく見込み量の数値と比較しても乖離はない。 【見込み量算出の方向性】 ・ニーズ調査結果から算出した数値を見込み量として設定してはどうか。	
4 子育て短期支援事業	人日 ※実績は利用日数	124	98	109	594	576	560	549	535	【実績・見込み量の状況等】 ・ショートステイについては、原則7日までの利用であるが、ニーズ調査結果に基づく数値は、回答者1名が年間45日利用したいとの結果によるものとなっている。 【見込み量算出の方向性】 ・今回のニーズ調査の回答からは、制度利用の要件に合致したサンプルが得られなかったことから、見込み量積算にあたっては、実績をもとに見込み量を設定してはどうか。 ・実績に基づき見込み量を設定する場合、平成26年度の見込みを基本としつつ、事業の性質を踏まえ、数値を維持する形の目標としてはどうか。	
					事務局案(実績を踏まえた見込み量)						110
5 乳児全戸訪問事業	人	1,160	**	**	← (ニーズ調査結果によらず集計) →						
6 養育支援事業	(子育てパートナー)	人	5	4	25	50	50	50	50	50	【見込み量算出の方向性】 ・実績に基づき見込み量を設定する場合、平成26年度の見込みを基本としつつ、事業の性質を踏まえ、数値を維持する形の目標としてはどうか。
	(ママサポート)	人	16	23	25						
7 地域子育て支援拠点事業	人回 ※実績は延べ利用組数	19,536	**	20,500	4,338	5,706	5,531	5,412	5,313	【実績・見込み量の状況等】 ・24年度実績、26年度見込みがニーズ調査による数値より高くなっている。 【見込み量算出の方向性】 ・現状の中学校単位での設置により、きめ細かい対応が可能となっていることや、年々利用者が増加傾向にあることから、実績をもとに見込み量を設定してはどうか。 ・中学校区に1ヶ所整備することを目標として見込み量を設定。(3ヶ所の増設を目指す)	
					事務局案(実績を踏まえた見込み量)						23,000
8 一時預かり事業	人日	86,751	**	86,025	171,925	171,925	171,925	171,925	171,925	【実績・見込み量の状況等】 ・24年度 幼稚園の預かり保育の実績内訳 市立幼稚園 31,635人日、私立幼稚園 38,894人日 現状では1号・2号の区別がないため、実績値には長時間預かりも含んでいる。 ・幼稚園の預かり保育の24年度実績がニーズ調査による数値より高くなっている。 ・その他の一時預かりは24年度実績、26年度見込みよりニーズ調査による数値が高くなっている。 ・その他の一時預かりの内訳 ・従来の一時預かり 延べ利用児童数 24年度 12,243人 26年度 10,988人 ・子育て短期支援事業(トワイライトステイ) 延べ利用日数 24年度 644日 26年度 1,095日 ・ファミ・サポ事業(就学前児童) 延べ利用者数 24年度 3,335人 26年度 3,413人	
					事務局案(実績を踏まえた見込み量)						59,503
	幼稚園の一時預かり(1号)	人日 ※実績は長時間預かりを含む	70,529	**	70,529	5,421	5,421	5,421	5,421	5,421	【見込み量算出の方向性】 ・実績数値とニーズ調査結果から算出した数値の乖離がある。 ・一時預かりの見込み量の大半を幼稚園の預かり保育が占めるが、こども園への移行など現時点では不確定な要素が大きい。そのため、以下のような対応が考えられるので検討頂きたい。 ①実績を踏まえた算出により見込み量を設定する。 ②ニーズ調査結果から算出した数値で見込み量を設定するが、平成27年度以降の新制度開始後の状況を踏まえ計画の中間年などの時期に見直しを行う。 ・実績を踏まえた算出による場合 ＜幼稚園の預かり保育(1号)＞ ・公立の預かり保育の実績を踏まえ、見込む。 ＜幼稚園の預かり保育(2号)＞ ・私立幼稚園 h24 38,894人日のうち、 【h27】 38,894人日-(h27にこども園へ移行見込み 26,526人日)=12,368人日 【h28以降】 12,368人日-(h28移行見込み8,949人日)=3,419人日 を、各年度2号として見込む。
						事務局案(実績を踏まえた見込み量)					
	幼稚園の一時預かり(2号)	人日	/	/	/	144,131	144,131	144,131	144,131	144,131	
その他(従来の一時預かり、トワイライトステイ、ファミサポートセンター事業)	人日	16,222	**	15,496	22,373	22,373	22,373	22,373	22,373	【実績・見込み量の状況等】 ・ニーズ調査の結果では、事業のニーズが高出ているが、実際の利用状況では実績は伸びていない。 【見込み量算出の方向性】 ・実績数値とニーズ調査結果から算出した数値の乖離がある。 ・実際の利用状況を踏まえた見込み量とすべきか、ニーズ調査の結果に基づく見込み量とすべきかご検討いただきたい。 ・実績に基づき見込み量を設定する場合、平成26年度の見込みを基本としつつ、体調不良児型の実施数の増を目指して、27年度以降、数値を維持する形の目標としてはどうか。	
					事務局案(実績を踏まえた見込み量)						15,500
9 病児・病後児保育事業	人日 ※実績は延べ利用者数	1,682	**	1,775	12,386	12,386	12,386	12,386	12,386		
10 子育て援助活動支援事業(ファミサポートセンター・就学児)	人日	2,016	2,041	2,066	252	252	252	252	252	【実績・見込み量の状況等】 ・平成24年度実績、平成26年度見込みがニーズ調査による数値より高くなっている。 【見込み量算出の方向性】 ・ニーズ調査による数値より実績が高くなっていることから、実績に基づき見込み量を設定してはどうか。 ・実績に基づき見込み量を設定する場合、平成26年度の見込みを基本としつつ、事業の性質を踏まえ、数値を維持する形の目標としてはどうか。	
					事務局案(実績を踏まえた見込み量)						2,070
11 妊婦健診	人	25,160	**	**	← (ニーズ調査結果によらず集計) →						
	回数	14	14	14							